

2024年02月

中医学の「陰陽理論」及び臨床応用

上海中医薬大学附属日本校 陳 雷

一、「陰陽」の字義

- (一)「陽」の字義 「太陽昇起の意味」
(二)「陰」の字義 「水之南、山之北也」

二、「陰陽」の哲学概念

(一) 陰陽学説 (理論)

中国古代人が自然万物を認識し、解釈する世界観と方法論である。自然界のあらゆる物事と現象を「陰」と「陽」二つの概念で概括し、陰と陽の相互作用（対立かつ統一）によって生まれ、発展変化し続けるものとする学説である。

(二) 「陰陽」の観点で帰納

- 陰——暗い・寒冷・下降・衰退・静止・抑制
- 陽——明るい・温暖・上昇・生長・活動・興奮

(三) 「陰陽」の応用

陽	上	天	日	昼	晴	火	熱	動	昇	外	明	気	・	・
陰	下	地	月	夜	曇	水	寒	静	降	内	暗	形	・	・

三、陰陽の中医学応用

(一) 人体の組織構造の陰陽

組織構造	陰	陽
部位	下部 体内 胸腹部 内側	上部 体表 背部 外側
臓腑	五臓	六腑
経絡	手足の三陰経	手足の三陽経
組成(物質)	血・津液	気

(二) 人体の生理機能の陰陽

陰——鎮静・抑制・涼寒

陽——興奮・亢進・温熱

(三) 人体の病理変化の陰陽

陰陽の平衡状態

1. 正常：健康状態
2. 陽盛・陰盛
3. 陽虚・陰虚
4. 陰陽両虚

(四) 人体の疾病診察への運用

診法	陽証	陰証
望	色艶が鮮やか	色艶が暗い
聞	声が高く響く、口数が多い	声が低く弱い、口数が少ない
問	熱がり、冷い飲み物を好む	寒がり、温い飲み物を好む
切	浮、数、大、滑、実脈	沈、遅、細、洪、虚脈

(五) 疾病の治療への応用

1. 治療の総原則：「陰陽調和」（バランス良くする）
2. 陽盛：清熱　陰盛：祛寒、利水祛湿
3. 陽虚：補陽　陰虚：補陰
4. 陰陽両虚：陰陽双補

まとめ

中医学陰陽観念の応用要点

- 健康とは、陰陽の平衡状態である
- 疾病とは、陰陽の不均衡状態である
- 治療とは、陰陽を調和することである